

第4号の発刊にあたって

1986年6月、学内措置で発足した長崎大学外国人留学生指導センターは、現在まで10年間にわたり、外国人留学生の修学や生活上のさまざまな困難を支援し、また初歩の日本語からかなりのレベルに到るまでの日本語の補講を実施し、多くの留学生のために貢献してきました。その間、歴代のセンター長、センター専任教官、非常勤講師の諸先生並びに学内で留学生を直接受入れておられる教官、毎日留学生と接しておられる学生部及び各学部の事務官諸氏が、恐らく一様に望んでおられたことは、「留学生受入れ10万人計画」とともに飛躍的に増大している留学生に対して、全学的な支援体制であり、教育の一元化ではなかったかと思われます。

前回の第3号の発刊にあたって一年報から紀要へで書かせていただいた本指導センターの省令施設への昇格切望が、1996年度政府予算案に盛り込まれ、現在国会の審議を待つばかりの状況となっています。これも横山哲夫学長、渡邊隆事務局長を始め関係した方々のご尽力、ご協力の賜物であり、担当指導センター長として、センターに係わりのある教官、事務官諸氏を代表して心から御礼を申し上げます。

今後は留学生に対する日本語教育の効果的な実施、留学生の教育研究上あるいは社会生活の適応上の悩みに関する指導が一元的に実施され、全留学生に対するきめ細かな指導援助体制の確立が図られることとなり、結果として、留学生に対する教育研究を通じての国際協力や、人材育成等の貢献だけでなく、本大学の国際化、活性化の一層の躍進が期待されます。

第4号にあたる本紀要が、外国人留学生指導センター紀要としては最後となります。次号第5号からの紀要内容の更なる発展充実を期待し、第4号発行の言葉といたします。

1996年1月

長崎大学外国人留学生指導センター長
有吉敏彦